

国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所
蒲原海岸出張所 皆様 様

前略

突然の手紙で失礼します。私は、静岡市在住の杉村和高と言います。河川上流と中流の土砂流下について長年観察と研究を続けて来たアマチュアの実験者で、上流中流の土砂流下が行き着く先の、海岸の砂浜問題についても観察し研究しています。そして、それらの研究成果を「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」として、WEB上で公開しています。

<https://keiryuu.sakura.ne.jp/index.html>

私が、土砂の流下と堆積に関心を持ち河川と海岸の観察を始めた頃には、由比、蒲原の海岸には、まだまだ立派な砂浜がありました。

そのころ、何年だったか定かではないのですが、蒲原海岸に子供のクジラの死骸が打ち上げられて、それを骨格標本にするために海岸の砂浜に埋め、数年の後に取り出そうとした時には何処にも見つける事が出来なかった事件がありました。私は、直接現地に行くことは出来なかったのですが、新聞記事や個人のWEB上の掲載でそれらの状況を知る事が出来ました。

また、私が海岸の砂浜の問題を理解するために三保まで続く静岡の前浜の観察を始めたのは、たまたま、浸食一方だった前浜が少しずつ回復を始める時期でもあったのです。

そんな訳で、私は、海岸の砂礫が沿岸流と呼ばれる潮流の力では無く、渚に打ち上げる波によって移動している事を知る事が出来ました。私は、渚を斜めに打ち上げる波が、実際に土砂を移動させている光景を確かめる事が出来たのです。ですから、その動画も公開しています。

私は、由比、蒲原海岸に昔の砂浜を取り戻す事は可能である、と皆さんにお伝えしたいのです。昔、由比、蒲原に限らず日本中の至る所に砂浜や砂礫浜がありました。それらは全て自然状態で存在していたのです。そして、近年に至るほどそれらは失われました。ダムが出来たから砂浜が失われたと主張する人がいます。しかし、ダムが無い河川がそそぐ海岸でも砂浜は失われています。由比、蒲原海岸もその例です。

砂浜が失われたのは、昔からの自然が失われたからです。したがって、それらを取り戻すためには、失われた自然を取り戻しさえすれば良いのです。とても簡単な事柄に過ぎません。

とは言うものの、現実にはそれほど簡単な事ではありません。かつての砂浜は一夜にして失われたものではありません。何年も掛かって次第に失われて行ったのです。ですから、それらを取り戻すためにも何年も掛かる事でしょう。

しかし、何らの展望がないままコンクリートブロックを設置する事にのみ精力を注いでいたのでは皆さんの存在価値はありません。もちろん、皆さんもそれらの仕事のみで良いと思っているはずありません。また、地域住民の皆さんも、蒲原出張所がかつての海岸を取り戻してくれる事を願っているでしょう。

現在は、何故、どのようにして海岸の砂浜が失われたのかを、蒲原出張所の皆さんが理解していない状況なのではないでしょうか。その事さえ理解出来れば、その対策も容易に理解できるはずです。新たな方向性や具体性が明らかになれば、皆さんの実力は充分に発揮されるようになると考えています。

上記の事柄の実例や考え方は以下を参考にして下さい。また、できれば、それらの記述の前の章や、関連する論述をお読み頂ければより良い理解が可能でしょう。海岸の砂浜のほとんどは、河川がもたらした土砂によるものですから、河川で生じている状況を把握出来なければ、海岸も回復できません。

「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」

<https://keiryuu.sakura.ne.jp/Keiryuu01/keiryuu00.html>

「第6章 河川から流失した土砂と「砂浜海岸」」

由比、蒲原海岸の場合では、ごく小規模な工事によって砂浜が回復傾向を示す事が実証出来ると考えられます。それらを実証した後に本格的な工事を行えば良いのではないのでしょうか。

是非、蒲原出張所の皆様全員で情報を共有化させてその方向性や具体性について議論される事をお勧めします。日本中で、具体的な方向性を明らかにして砂浜や砂礫浜を回復した例は何処にも無いのです。静岡の前浜が回復傾向にあるのは、たまたま運が良かったに過ぎないからです。

是非、砂浜の回復の具体例に一番乗りの声を挙げて頂きたいと思っています。以上、一方的なお知らせに終始して申し訳ありません。また、直接お会いして説明等させて頂ける事を願っています。

敬具

2022年4月26日

420-0884 静岡市葵区大岩本町 25-37 フローラル城北C-201

杉村和高